

複式第5・6学年 国語科学習指導案

1 単元・教材

文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう 「見立てる」「言葉の意味が分かること」(光村図書5年)

主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう 「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」(光村図書6年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第5学年)

これまでに子供たちは、4年の「アップとルーズで伝える」の学習で、文章構成や段落どうしの関係を確認、筆者の考えを捉えることを、「パンフレットを読もう」の学習で、内容の中心となる語や文、絵や写真の役割を捉えながら、パンフレットを読む学習をしてきている。さらに、「世界にはこる和紙」の学習では、まとまりごとに中心となる語や文を確認、要約することを学習してきている。

本単元は、「読むこと」の説明的な文章の練習教材「見立てる」と本教材「言葉の意味が分かること」で構成されている。事例・理由や論の展開に着目して、要旨を捉えたり、原因と結果など情報と情報との関係について理解したりできるようにすることを主なねらいとしている。

ここでの学習は、5年「固有種が教えてくれること」での、文章における資料の効果を考えながら読み、自分の表現に生かす学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

教材「見立てる」「言葉の意味が分かること」は、どちらも筆者の主張が「初め」と「終わり」で述べられ、「中」で、筆者の考えを論証する事例が示されている双括型の文章である。そのため、この論説文の構造に着目して読むことで、要旨を捉えることがしやすいものとなっている。また、文化や言葉に表れたものの見方の特徴に関する内容は、自分の生活経験や既存の知識と結び付きやすく、他者との考えの交流に適している。

そこで、本単元では、文章全体の構成を捉えて要旨を把握したり、筆者の主張や事例などに対する自分の考えをまとめたりすることができるようにするために、「見立てる」「言葉の意味が分かること」の文章構造に着目させる。その際、「文章の要旨を捉え、考えたことを複式5校の友達と伝え合う」ことを言語活動として設定する。

具体的には、まず、本単元の言語活動モデルを提示し、学習の目的やゴールを確認することで、子供が見通しをもつことができるようにする。また、試し作りの活動から、子供と一緒に学習課題を作成することで、子供が身に付けたい力を意識しながら説明的文章を読むことができるようにする。

(第6学年)

これまでに子供たちは、5年の「言葉の意味が分かること」の学習で、事例・理由や論の展開に着目して、要旨を捉えることを、「新聞を読もう」の学習で、書かれた目的や対象を踏まえて、知りたいことにあった新聞や記事を選んで読む学習をしてきている。さらに、「固有種が教えてくれること」の学習では、文章における資料の効果を考えながら読むことを学習してきている。

本単元は、「読むこと」の説明的な文章の練習教材「笑うから楽しい」と本教材「時計の時間と心の時間」で構成されている。筆者の主張と、それを支える事例を捉え、自分の知識や経験と関連させながら読むことができるようになることを主なねらいとしている。

ここでの学習は、6年「鳥獣戯画を読む」での、論の展開や表現の仕方に着目して複数の考えを読み、考えを交流する学習へと発展していく。

教材「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」は、どちらも筆者の主張が「初め」と「終わり」で述べられている双括型の文章である。そのため、「中」を読むことで筆者の主張を支える事例を捉えることができ、主張と事例の関係を理解しやすいものとなっている。また、心と体のつながりや時間の感覚に関する内容は、自分の生活経験や既存の知識と結び付きやすく、他者との考えの交流に適している。

そこで、本単元では、文章全体の構成を捉えて要旨を把握したり、筆者の主張や事例などに対する自分の考えをまとめたりすることができるようにするために、「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」の筆者の主張と事例の関係に着目させる。その際、「筆者の主張に対する自分の考えをまとめて複式5校の友達と伝え合う」ことを言語活動として設定する。

具体的には、まず、本単元の言語活動モデルを提示し、学習の目的やゴールを確認することで、子供が見通しをもつことができるようにする。また、試し作りの活動から、子供と一緒に学習課題を作成することで、子供が身に付けたい力を意識しながら説明的文章を読むことができるようにする。

次に、課題を解決するために、「笑うから楽しい」

次に、課題を解決するために、「見立てる」「言葉の意味が分かること」の全体の構造や原因と結果の関係などについて、情報を整理しながら読むことで、事例と筆者の主張の結び付きや表現の工夫のよさを読み取ることができるようにする。その際、筆者の主張や事例などに対する自分の考えを経験や知識と関係付けながらノートにまとめることで、学びのプロセスを可視化し、対話活動や振り返りに生かすことができるようにする。

終末では、蓄積した学びを生かして文章の要旨をまとめ、筆者の文章に対する自分の考えを伝え合う場を設定することで、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

さらに、単元を通して、「どんな言葉の力が身に付いたのか」を「ダイヤモンド・サイクル」を用いて振り返り、6年生と交流することで、学んだことを自覚し、次時の学習につなげたり、実生活や実社会の中で生かしたりすることができるようにする。

(3) 子どもの実態（調査人数3名）

【①主張が書いてある段落を捉えること】

できる2 できない1

【②事実と考えを区別すること】

全問正解2 3問間違い1

【③要旨を捉え、自分の考えをまとめること】

できる0 できない3

【④複式学習でのよさ】

- ・協力できて楽しい。
- ・自分たちで進められるのが楽しい。
- ・みんなの考えを聞くのが面白い。

【⑤複式の授業で困るところや難しいところ】

- ・自分たちで答えが出せないときに困る。

①より、文章の構造を捉えることが難しい子供がいることが分かった。

②より、「～ほしいのです。」「～かもしれません。」を事実と誤認している子供がいることが分かった。

③より、文章構成を捉えて、要旨をまとめることが難しい子供が多いことが分かった。

④より、複式の授業に対して肯定的なイメージをもっていることが分かった。その一方で、「自分たちで解決できないときに困ってしまう。」といった意見もあった(⑥)。

以上のことから、文章全体の構成を捉える際には、筆者の主張がどこに書かれているのかを、くり返しの言葉や文末表現などに着目させながら捉えさせるようにしたい。また、「事実」と「考え」について、文末表現をもとに読み分ける活動を設定したい。そして、事例・理由や論の展開に着目して、要旨を捉え、まとめられるようにしたい。要旨に対する自分の考えをどのように書けばよいかわからないという課題に対しては、三角ロジックを用いることで、論理的に表現できるということを自覚することができるようにする。

授業においては、単元導入時に、全員に単元の見通しをもたせることで、ガイドに頼ることなく、一人一

「時計の時間と心の時間」の全体の構造や事例の挙げ方、筆者の主張と事例の関係などについて情報を整理しながら読むことで、筆者の事例の挙げ方やその意図を読み取ることができるようにする。その際、筆者の主張や事例などに対する自分の考えを経験や知識と関係付けながらノートにまとめることで、学びのプロセスを可視化し、対話活動や振り返りに生かすことができるようにする。

終末では、蓄積した学びを生かして筆者の主張や事例などに対する自分の考えを伝え合う場を設定することで、筆者の主張や事例に対する自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

さらに、単元を通して、「どんな言葉の力が身に付いたのか」を「ダイヤモンド・サイクル」を用いて振り返り、5年生と交流することで、学んだことを自覚し、次時の学習につなげたり、実生活や実社会の中で生かしたりすることができるようにする。

(調査人数2名)

【①主張が書いてある段落を捉えること】

できる1 できない1

【②事実と考えを区別すること】

全問正解1 2問間違い1

【③要旨を捉え、自分の考えをまとめること】

できる0 できない2

【④複式学習でのよさ】

- ・5年生の考えも聞ける。
- ・協力することができる。

【⑤複式の授業で困るところや難しいところ】

- ・先生が5年生と授業を進めているときに、2人とも分からなくて話合いが進まないとき。

①より、文章の構造を捉えることが難しい子供がいることが分かった。

②より、「～かもしれません。」「～と考えています。」を事実と誤認している子供がいることが分かった。

③より、文章構成を捉えて、要旨をまとめることが難しいことが分かった。

④より、複式の授業に対して肯定的なイメージをもっていることが分かった。その一方で、「わからないときになかなか気軽に質問ができない。」「自分たちで解決できないときに困ってしまう。」といった意見もあった(⑥)。

以上のことから、文章全体の構想を捉える際には、筆者の主張がどこに書かれているのかを、くり返しの言葉や文末表現などに着目させながら捉えさせるようにしたい。また、筆者の主張と、それを支える事例の関係を捉えながら要旨を把握し、筆者の主張に対する考えを伝え合うことができるようにしたい。要旨に対する自分の考えをどのように書けばよいかわからないという課題に対しては、三角ロジックを用いることで、論理的に表現できるということを自覚することができるようにする。

授業においては、単元導入時に、全員に単元の見通

人が自分の学びを自己調整しながら学ぶことができるようにする。さらに、同時導入・同時終末による「ずらし」なしの学習過程にすることで、同時間接指導の時間をより多く確保し、個別最適な学びの充実を図っていききたい。

しをもたせることで、ガイドに頼ることなく、一人一人が自分の学びを自己調整しながら学ぶことができるようにする。さらに、同時導入・同時終末による「ずらし」なしの学習過程にすることで、同時間接指導の時間をより多く確保し、個別最適な学びの充実を図っていききたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

◎ 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知(2)ア) ◎ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思C(1)ア) ◎ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ) ○ 粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもって分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。(学びに向かう力、人間性)	◎ 主張と事例など情報と情報との関係について理解することができる。(知(2)ア) ◎ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思C(1)ア) ◎ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ) ○ 粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもって分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。(学びに向かう力、人間性)
---	---

(2) 評価規準

第5学年	観点	第6学年
原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	知識・技能	主張と事例など情報と情報との関係について理解している。
①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	思考・判断・表現	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。
粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもって分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。	主体的に学習に取り組む態度	粘り強く、論の進め方について考え、学習の見通しをもって分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。

4 指導計画（第5学年：全7時間、第6学年：全7時間）

学習課題・主な学習活動	
1 試しの活動をしたり、本単元の言語活動のモデルを分析したりすることで、単元の学習課題や計画を設定する① 文章の要旨を捉え、自分の考えを複式5校の友達に分かりやすく伝えるには、どのように読めばよいだろうか。 2 「見立てる」を読み、事例や構成に着目して筆者の考えを捉え、要旨をまとめる。②（本時） 3 「言葉の意味が分かること」を読み、構成や筆者の考えを捉える。③ 4 「中」を内容のまとまりごとに分け、筆者の考えと結び付けて捉える。④ 5 文章の要旨を150字以内でまとめる。⑤ 6 2つの事例を、原因と結果という関係で捉える。⑥ 7 筆者の考えや事例の示し方に対する考えをまとめる。まとめた考えを複式5校の友達と伝え合い、単元の学習を振り返る。⑦ ○ 「文章全体の構成」、「繰り返しでてくる表現」、「文末表現」などに着目し、筆者の考えを捉えながら読む。 ○ 筆者の主張について、自分が知っていることや体験したことなどと関連付けながら読む。	1 試しの活動をしたり、本単元の言語活動のモデルを分析したりすることで、単元の学習課題や計画を設定する① 筆者の主張や事例を捉え、自分の考えを複式5校の友達に分かりやすく伝えるには、どのように読めばよいだろうか。 2 「笑うから楽しい」を読み、筆者の主張とそれを支える事例の関係に着目して、筆者の意図を捉える。②（本時） 3 「時計の時間と心の時間」を読み、文章全体の構成を考え、筆者の主張を捉える。③ 4 筆者が、どのような事例を挙げて説明しているかを確かめる。④ 5 筆者が複数の事例を挙げて説明した意図を話し合う。⑤ 6 筆者の主張や事例などに対して、自分の考えをまとめる。⑥ 7 自分の考えを複式5校の友達と伝え合い、単元の学習を振り返る。⑦ ○ 筆者の挙げている事例について、主張と結び付けながら読む。 ○ 筆者の主張や事例について、自分が知っていることや体験したことなどと関連付けながら読む。

5 本時（第5学年：2/7、第6学年：2/7）

(1) 目標

○ 事例や構成に着目して筆者の考えを捉え、要旨をまとめることができるようにする。

(2) 指導に当たって

自力解決の過程では、自己選択・自己決定の場を設定することで、自分に合った学び方で、学びを自己調整しながら主体的に課題解決に取り組むことができるようにする。

学び合いの過程では、ノートやワークシートをもとに、考えの共通点を見付けながら対話をする場を設定することで、互いの読みを深めることができるようにする。

(3) 実際 ※ **あ**：「道具・活動」の自己選択・自己決定 **い**：「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定 **う**：「学習時間・ペース」の自己選択・自己決定 **え**：「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定 **お**：「課題・めあて」の自己選択・自己決定

指導上の留意点	主な学習活動（第5学年）	過程	位置／時間	過程	主な学習活動（第6学年）	指導上の留意点
○ 前時のノート記述を振り返る時間を設定することで、本時の学びにつなげられるようにする。	1 前時までの学習を振り返る。  前の時間は、文章構成を捉えることができたよ。要旨は、どうやってまとめればいいのか。	振り返る	③	振り返る	1 前時までの学習を振り返る。  前の時間は、筆者の主張を捉えることができたよ。筆者は、「中」でどんな事例を挙げているのかな。	○ 前時のノート記述を振り返る時間を設定することで、本時の学びにつなげられるようにする。
お 自分の言葉でめあてを立てることで、課題を解決する意欲を高めることができるようにする。	2 本時の学習課題を確認する。 要旨をとらえるときには、どんなことに気を付ければよいだろう。	つかむ・見通す		つかむ・見通す	2 本時の学習課題を確認する。 筆者は、事例として何を挙げているのだろう。また、それらの事例があるよさは、何だろうか。	お 自分の言葉でめあてを立てることで、課題を解決する意欲を高めることができるようにする。
う 自力解決や共有、まとめに必要な時間を選択・確認する時間を設定することで、時間を管理しながら自己の学びを調整する意識を高めることができるようにする。	3 課題解決の見通しをもつ。 ＜学習の流れの見通し＞  ・一人学びに15分は必要だよ。 ・学び合いは、10分でよさそうだね。 ＜解決の方法の見通し＞ ・まずは、「文章構成」の技を使って読もう。 ・その後、「くりかえし」の技也使おう。		⑤		3 課題解決の見通しをもつ。 ＜学習の流れの見通し＞  ・15分で自分の考えをまとめよう。 ・そのあと、10分で考えを共有しよう。 ＜解決の方法の見通し＞ ・5年生で学んだ「原因と結果」の技が使いそう。 ・事例同士を比較しながら読んでみよう。	う 自力解決や共有、まとめに必要な時間を選択・確認する時間を設定することで、時間を管理しながら自己の学びを調整する意識を高めることができるようにする。
え 「どんな技（視点）が使いそうかな。」と問うことで、課題解決に適した方法を個々で選択・確認し、見通しをもって取り組むことができるようにする。	4 自力解決をする。 ・筆者の考えが分かる言葉や文に線を引き、ノートに要旨をまとめる際に必要な部分を記述する。  まずは、「文章構成」の技を使って、筆者の主張が書いてある段落を見付けたよ。その中の大事な言葉を短くまとめたらよさそう。	調べる・深める	⑫	調べる・深める	4 自力解決をする。 ・主張とつながりのある言葉や文に線を引き、ノートに自分の考えをまとめる。 ・筆者がなぜ、この事例を挙げて説明しているのか、理由を考える。  ・2段落は「実験」の内容を書いているね。実験の結果とその原因もセットで書いてあるから、分りやれね。 ・3段落は「事実」だね。この2つの事例があることで、主張の説得力を高めているんだね。	え 「どんな技（視点）が使いそうかな。」と問うことで、課題解決に適した方法を個々で選択・確認し、見通しをもって取り組むことができるようにする。
○ どの段落のどの言葉を使うのか、自分の考えをノートに書いたり教科書の本文に線を引いたりする活動を設定することで、要旨をまとめる際に必要な視点を捉えることができるようにする。	5 学習のまとめを行う。 要旨をとらえるときには、文章構成を意識して読み、筆者の主張の書いてある段落を見つけて、大事な言葉を短くまとめるとよい。	まとめる・生かす・振り返る		まとめる・生かす・振り返る	5 友達と考えを共有する。 ・自分の意見を発表したり、友達のよさを見付けアドバイスをし合ったりしながら事例の内容やその事例を挙げた理由を話し合う。（ノート、ワークシート）	○ どの段落のどの言葉を使うのか、自分の考えをノートに書いたり教科書の本文に線を引いたりする活動を設定することで、筆者の主張とそれを支える事例の関係を捉えることができるようにする。
○ 気付いたことや考えたことの共通点を出し合う時間を設定することで、自分たちでまとめへとつなげることができるようにする。	6 文章の要旨をまとめる。 ・自分で選択したワークシートに「見立てる」の要旨を100字程度でまとめる。				6 学習のまとめを行う。 筆者は、「実験」と「事実」の2つの事例を挙げている。また、この事例を挙げることで、「体と心は深く関わり合っている」という主張の説得力を高めようとしている。	あ・え 早く解決できた子供には、自分で文章の要旨をまとめるように働きかける。
○ 100字程度でまとめるという条件を提示することで、大事な言葉を吟味しながら、要旨をまとめることができるようにする。	7 友達と考えを共有する。 ・まとめた要旨を発表したり、友達のよさを見付けアドバイスをし合ったりしながら要旨をまとめる際の視点を確認する。				7 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 ・筆者の主張に対し、自分はどうか考えたのかをノートに書く。	○ 気付いたことや考えたことの共通点を出し合う時間を設定することで、自分たちでまとめへとつなげることができるようにする。
え マス目のみのワークシート、ヒントありのワークシート、書き出しがあるワークシートを準備することで、自分に合った方法を選択して課題を解決できるようにする。	8 本時の学習を振り返る。 ・ノートに振り返りを記述し、全体で共有する。				8 本時の学習を振り返る。 ・ノートに振り返りを記述し、全体で共有する。  事例の挙げ方には、主張を読み手に分かりやすく伝えるための工夫があることが分かった。 ・「時計の時間と心の時間」も、主張とどんなつながりがあるかを意識しながら、事例の書き方を読み取っていきたい。	○ 文末表現を意識するよう促すことで、筆者の考えと自分の考えを書き分けることができるようにする。
あ・え 早く解決できた子供には、要旨に対する自分の考えをまとめるよう働きかける。						○ ICTを活用して、それぞれの振り返りを全体に提示することで、本時の学びを自覚化し、次時の学びへの意欲を高めることができるようにする。
○ ICTを活用して、それぞれの振り返りを全体に提示することで、本時の学びを自覚化し、次時の学びへの意欲を高めることができるようにする。						

